

トルコ金融政策（2021年10月）

市場予想を上回る大幅な利下げでトルコ・リラは急落

2021年10月22日

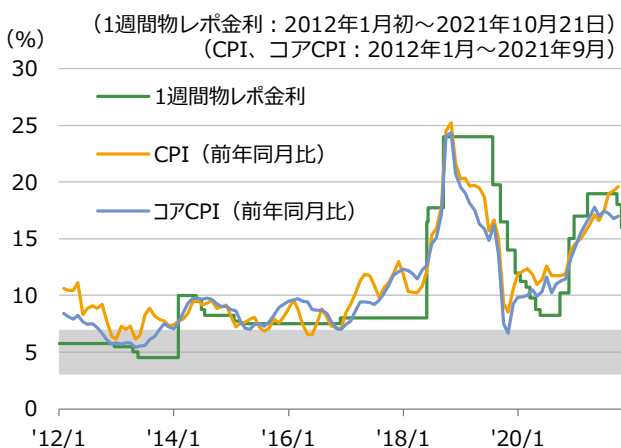
今後は利下げ幅を縮小させていく見込み

トルコ中央銀行は10月21日（現地、以下同様）、政策金利（1週間物レポ金利）を18.00%から16.00%に引き下げると発表しました。市場予想は0.50%ポイントか1.00%ポイントの利下げに集中していたため、それを大幅に上回る2.00%ポイントの利下げはサプライズとなりました。発表後にトルコ・リラは急落し、円や米ドルに対して史上最安値を更新しました。

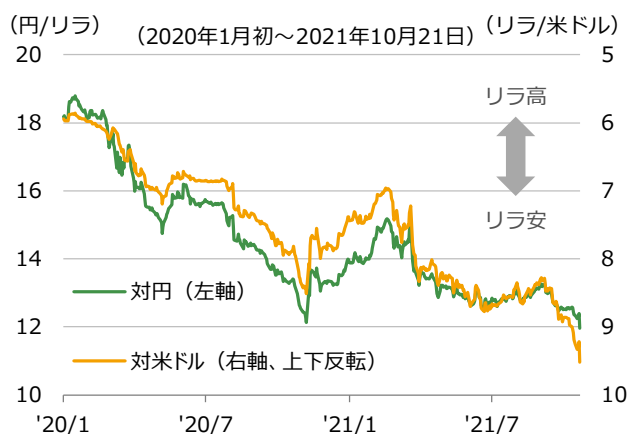
同行は声明文で、大幅な利下げに至った背景と今後の方針を説明しています。最近のインフレ上振れは、食料品価格や輸入価格（特にエネルギー価格）、サプライチェーンの混乱など、供給側の要因によって引き起こされており、これらは一時的なものだと評価しています。一方、これまでの引き締めの金融政策により信用創造や内需を抑制する効果は現れていると述べており、これらを総合的に判断すると、今回の利下げはこれから供給側の要因が解消に向かうことでインフレ率が沈静化することを見越した上での対応だと解釈できます。今後については、「年末まで、供給側の一時的な要因が利下げ余地を限定的にする」と述べているため、利下げする場合でもより小幅なものにとどまると想定されます。

エルドアン大統領は10月13日に金融政策委員3名を解任するなど中銀への介入を強めており、中銀の金融政策に対する主体性は低下しています。そのため、今後はインフレ率が高止まりしても利上げへの期待が高まらない一方、インフレ率が鈍化すれば追加利下げへの期待が高まりやすいため、いずれにしてもトルコ・リラには下落圧力がかかりやすい状況が続くと思われれます。

政策金利とCPI（消費者物価指数）



トルコ・リラの対円・対米ドルレート



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。